

PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

胎児の人権宣言

前文

人間はひとりびとりが、受精の瞬間から自然死にいたるまで、生来の尊厳と固有の価値を有するので、今日我々は公けに以下の六ヶ条の宣言に同意する。

第一条

我々は、胎児ひとりびとりが、受精以後の発育のすべての段階において、人間であるという科学的事実を確認する。

第二条

我々は、本宣言に定められている権利を、人種、胎児年齢、性別、国籍、宗教、社会・経済的出自（生まれ）、障害の有無、その他のいかなる理由によつても差別することなく、尊重する。

第三条

我々は、胎児が、一九四八年の国連の人権宣言に述べられている胎児以外のすべての人間の基本的権利と同様の権利を有することを確認する。我々は、この権利が立法によつて認められることを要求する。

第四条

我々は、胎児ひとりびとりが良好な胎内環境で発育する権利を有することを認める。この環境には出産までの母親の適切な保証と両親への支援を求め、権利が含まれなければならない。

第五条

胎児が、受精の時から、科学的、医学的、または医学的実験や利用に供されない権利を有することを確認する。ただし、この実験や利用が胎児に直接

役立つ場合を除く。

第六条

我々は、胎児の発育とそれに関する諸問題についての科学的事実の教育の推進に努める。また我々は、女性が子供を産み育てるのを難しくしている社会的、経済的ならびに法律的諸条件の改善に努める。

結び

以上にかんがみ、我々はすべての国際団体、政府、組織、ならびにすべての善意の人々が、ここに含まれる各箇条を公認し、実行するように強く奨める。

一九九一年四月二七日
東京「国際生命尊重会議
東京大会」

中絶……

ある父親の物語

4月、僕は結婚式で彼女と出会い、そしてその日夕食に誘った。僕たちは互いに惹かれ合っていた。

それから2〜3カ月僕たちは電話で連絡を取り合ったり、僕が彼女の住む小さな町を訪ねたりした。僕たちは関係が深まるにつれ、愛情も強くなっていった。

僕たちは、彼女の妊娠を機に婚約した。僕たちの幸福に影響する唯一のことは、彼女が両親を恐れていることだった。彼女は駆け落ちしようと言い出したが、僕はそれは賢明ではないと思った。

9月、僕が結婚の計画について電話をすると、彼女は両親が妊娠のことを知り、中絶する予定だと告げた。「「めんなさい」彼女はずり泣き、電話は切れ

た。

僕は彼女と話し合いたかったが、彼女の家族は電話を取り次いでくれなかった。僕は、どうすればいいか分からなかった。自分が無力だと思った。僕は子供の時以来初めて泣く涙を止められなかった。それは、永遠に僕の心を悩ますだろう悪夢の始まりだった。

次の日曜日、僕は彼女に会いに出かけた。しかし、彼女の両親は彼女が家の外へ出るのを許さなかった。彼女は22才だったが、両親はいまだに彼女に対してかなりの支配力を持っていた。

ある日、彼女の父親が僕に彼の事務所で会いたいと言ってきた。僕は行った。彼は「君が問題だ」と言った。「君は娘が中絶するのをやめさせようとしている。私は娘の結婚は早すぎるし、子供を生むことも早いと思っている、妻も

同じ考えだ。私たちは中絶するように娘を促している。君ができる一番良いことは、この決定を受け入れることだ。もしそうするならば、私たちは今後君が娘に会うことを認めよう。そして、君も娘の中絶手術に金を払うべきだと思うがね……」。

そこで会話は激しくなった。僕は安穩としてわが子を殺させる道理はないし、ましてそれにお金を払うなんてことはない。僕は子供が生きることを守るためであればなんでも支払うつもりだが、子供を殺すためには一円たりとも出さない」と言った。

僕は法的な援助を探す一方、彼女を説き伏せようとした。彼女の両親は僕が電話するといつでも切った。そこで僕は彼女を職場に訪ね、次の日が中絶手術の予定日だと知った。場所

を聞きだそうとしたが、彼女は話してくれなかった。次の日、僕の子供は無惨にも殺されてしまった。赤ん坊の遺体を求めると拒否され、僕は病院がそういつた赤ん坊たちを焼却しているということを知った。子供の死は、僕の心に癒し難い、言葉にできない悲しみの傷を残したが、僕は戦いをあきらめない。今、僕は自分の体験を通して、父親の権利を認める法律を作るために法律を勉強している。その日が来るまで、僕は子供の権利と共に、父親の権利のためにも戦っていくつもりだ。

プロ・ライフの図書紹介

*「わたしの生命を

奪わないで」

Q & A

J・Cウィルキ博士夫妻著

菊田昇 訳

燦案出版社

*「いのちを見つめて」

育てよう、胎児の人権

国際生命尊重会議

東京大会記念出版

*「胎児は見ている」

バニー著 祥伝社

*月刊 生命尊重ニュース

ABORTION

QUESTIONS & ANSWERS

レイプされた結果妊娠してしまった場合、中絶は正当化されてもよいのではないか？

医療、法律関係者、時には犠牲者の家族でさえ、レイプされた本人の苦悩を十分に理解できないことが多い。そのため犠牲者は、自分に非があったのではないかと思いついてしまつことさえあるのだ。レイプされたうえに妊娠してしまつと、生まれてくるその子供に怒りをぶつけてしまつよつになり、何の罪もないただの犠牲者であつた女性が、まだ生まれてきてもない子供を犠牲者にしてしまつことによる。子供は現に存在し、何の罪も犯していないのだ。子供は全く潔癖な神の子であり、その妊娠に関

しては何の責任もないのであるから、罰として殺されるようなことは絶対あつてはいけないのである。

レイプされてしまったら、直ちに治療すれば妊娠を防ぐことができることを知っておく必要がある。性病やその他の傷を防ぐためにも早急の措置は欠かすことができないのだ。

子供が必要とされていない場合は中絶を認めた方がよいのではないか？

妊娠時に必要とされていない子供が誕生の時に必要とされていると考えるのは全く根拠のないことである。必要でない子供を生んでしまつと、後にその子供が虐待されるという考え方が常にあるよつだ。そこで中絶が子供の虐待を減らすことができるのではという考え方

が出てくる。実際は、虐待される子供たちも必要とされていた時が一度はあつたのである。

中絶はどんな場合であつても、無力な幼児に対する攻撃であると考えられる。法廷や法律は、中絶に対する制約を事実上すべて削り取つてしまい、子供は使い捨て商品だという考えを育む結果となつた。子供の価値は低下し、子供たちを大切にするとする義務感も低下してしまつた。中絶を行った家庭にすでにいる子供は、自分が本当に必要とされているか、そしてこれから先いつか必要とされなくなつてしまつのでは、と思いつんでしまつことだろう。「愛情があつたがために」中絶をしたなどという言い訳は通用しないのだ。

生まれてくる子供が身体的に障害があると分かつている場合、親が中絶を選んでよいのではないか？

肉体的にせよ、精神的にせよ、生まれてくる子供は普通の健康な子供と同じよつに一人の人間である。その子供に価値がない訳ではないのである。例えば、ダウン症候群の子供でも、家族や社会にとって非常に貢献的な存在になることが有り得るのだ。普通の子供と同じよつに、障害のある子供も愛情を必要としているし、帰属意識や、自分を表現する機会、自分の能力範囲で成功をおさめる機会を望んでいるのだ。それらの要望に応えようと努力することにより、親は一層親らしくなつていくのである。

医学は、子宮内の子供にある欠陥を癒す研究をま

さに始めようとしている。子宮内治療は、問題を解決し、苦痛をやらわけて、子供が普通の生活を送れるよつにすることが可能なのである。

国内ニュース

『産む、産まない』を選ぶ女の意志を最後の最後まで保障するのが「中絶」である。』

自分を本当に大切にすることができない人間は、他人に対して思いやりを持つことができないものだ。女が自分を大切にすることができるようになれば、胎児が大切にされるようになってならない。とってつけたように「生命尊重」のかげ声のもと、中絶の禁止を訴える人間は多いけれど、胎児の生命が尊重されるためには女性の生命＝人格が尊重されることが大前提なのだということを改めてはつきりさせておきたい。

『あずさの性・生の話』
宮子あずさ 著

「自分を本当に大切にすることってどういうことだろう？ 小さな胎児の生命を抹殺して生きることが本当に自分を大切にすることだろうか？ 一番弱い、ものの言わぬ胎児が大切にされることは、すばらしい社会実現：それは、女も男も子供も老人も障害のある人も、政治や法律や規則絡みではなく、まず人間として認め合い、共に生きようとする。」

プロ・ライフ

学校で傷つく

子供の性

電話相談によって学校での性被害を調べた思春期カウンセラー、門野晴子さんは、実態の予想以上の深刻さ悲惨さに怒りを新たにしている。

相談件数は二日で69件

に及んだ。内容はキス、レイプ未遂から何と既遂まで。その深刻さと反響の大きさに、門野さんたちは四月に再び、二日間の電話相談を追加した。

二回を合わせると相談件数は167件。北海道から九州まで相談者は広がっている。小、中、高校生が中心だが中には80歳の女性も。女子と男子はほぼ7対6の割合。12件のいたずら電話、性相談などを除いたハラスメント事例は129件に上った。屈辱的な身体検査22件、ボディタッチ20件、レイプ未遂16件、レイプ9件、キス5件、妊娠や中絶4件など驚くべき内容だ。

「ひきょうなのは多くの場合、内申書や成績、進路問題などをちらつかせて口止めを図っていること。教師たちはそういう権力機構がバックにあるのを百も承知でやっている。」
二回の電話相談の事例

を門野さんはこのほど、スクール・セクシャル・ハラズメント(学陽書房刊)という本にまとめた。

高知新聞1960・12・19

「教育自由席」より

国際ニュース

【ペルーで

中絶合法化？】

ペルーでは、状況によっては中絶を認めるという内容を盛り込む、刑法典の改訂が提案された。この改訂という状況とは、レイプされて妊娠した場合「や「母体の健康に永久的な傷を残す場合」「生まれてくる子供が身体障害児として生まれる可能性がある場合」などを指している。この改訂はまだ法的な有効性はないが、プロ・ライフの立場をとるグループ

や宗教団体はその可能性が大きいとして警戒を示している。「たとえ母親であるうとも、政治的な権威者であろうとも、声をあげて自分の権利を主張することのできない罪もない生命を奪う権利はない。そもそも暗殺者や罪人でさえもその生命の権利を法で守られているというのに、守備能力を持たず罪もない子供を死に追いやるような法を導入することは理解し難く、悔やむべきことだ。」と、ペルーの中でも最大とされる宗派のリーダーであるカトリック司教たちは厳しくこの法案を批判した。国際生命尊重連盟(RLIF)は地元のプロ・ライフグループに協力し、現在の討論がもたらした個々の疑問に対して信頼できる情報を提供している。

【南アフリカにおける中絶】

ボツワナにある南アフリカの黒人のホームランドに開かれた中絶病院が地元のプロ・ライフ協会からの抗議や世界各国に広まった反感的な動きをうけて閉業した。当病院は地元の黒人の人口を調整する目的で存在していたものである。南アフリカ政府は現在国全体の中絶に関する法律を緩和することによって試みているが、これは逆効果を生み出す可能性がある。プロ・ライフグループたちは、教会のリーダーたちと団結し合っ

てこのような政府の提案に反対する全国的なキャンペーンに乗り出す方針である。このキャンペーンは、状況によっては中絶を認めるとする現在の法律

を廃止し、全ての南アフリカの子供たちを生まれていないに問わず平等に守るよう要求している。

【中絶合法化の提案】

タイで中絶を合法化しようとする二つの提案が議会に持ち込まれた。一つは与党から、一つは野党から提案されたものであり、どちらの提案とも遅れば要求に応じて中絶を認めることになる。両提案ともまだ議案条項に載せられていないので採決がとられるわけではなく、次回の議会が召集されることもすぐには予定されていない。しかし仏教やイスラム教、キリスト教を含む宗教的なグループはプロ・ライフグループと共に団結し合っ

読者の声

正しい認識を持つ

私達は神様の子として、当然のことをしているだけですが、立派なグループを知って、返ってうれしく思っているのは私の方です。ありがとうございます。

私の所属するカトリック教会でも心ある方々は、この運動をよく知っていらっしゃるし、神父様も協力して下さり、パンフレットを結婚講座で配布して下さっております。

さかのぼりますが、5月の日本カトリック婦人団体連盟16回総会でも、個人的にと、又ある教会では「若い女性のマルガリタ会」へ持ち帰って下さいました。皆様よんで下さったと思います。そして、少しずつでもこの精神が社会に浸透していく力となるこ

とを祈ります。

今ちょうど、教会の友人と神父さまが、数年前にお作りになった結婚講座のパンフレットを補足、充実させる作業を手伝っております。中に、ビリングズ・メソッドに関する項目を入れ、一層具体的なご指導をと考えております。何といたっても、新しく夫婦になる若いカップルが胎児の生命に関して正しい認識を持つことが先決です。

愛知県：Uさん

すばらしい内容

すばらしい内容のリーフレットを沢山お送り下さいまして、ありがとうございます。四月より週一回、夏季休暇中には母子保育センターや母子相談員の方よりお話を伺い、又、

いろいろの性教育の本の抄読話し合いを重ねて参りました。沢山の学びを得られましたことを感謝致します。これをまとめ発表し、その時「命の尊さ」を訴えるのに使わせていただきます。本当にありがとうございます。今後共どうぞよろしくお願い申し上げます。

町田市立看護専門学校：S先生

若者の声

これから先も忘れないだろう

これまで中絶についての話を聞き、自分なりに分かっているつもりだったが、今回のビデオを見て本当の中絶というものを知ったような気がした。赤ちゃんが殺されないよう

に逃げたり、またその赤ちゃんの死体がゴミ同然のように放置されている場面など、見る事ができないくらいだった。ショックだったけど、百分は一見にしかずでいい経験になったと思う。赤ちゃんの声なき叫び、そして母親の悲しみはこれから先も忘れないだろう。

(矢野頼子)

母親に助けを求めただろう

私は中絶のビデオを見て正直言ってかなりショックを受けた。しかし見る事ができてよかった。中絶という本当の姿を知ることができたから。胎児はきつと母親に助けを求めただろう。本当にいつたい誰がその命を奪う権利をもっているだろうか。そして、胎児だけでなく母親も被害者であることを忘れてはいけない。

(古賀鈴子)

軽く考えすぎている

私は聖書の時間に人工中絶のビデオを見てとてもショックでした。年間は何万人もの赤ちゃんが殺されているからです。若い人たちは物事を何に關しても軽く考えすぎていると思います。だから近代では妊娠したら中絶すればいいや、と思っっている人が少なくはないと思います。赤ちゃんには何の罪もありません。中絶している時に棒管から必死に逃げようとしていました。私達は小さな命をもつと大切にしなければいけないと思いました。

(待鳥美紀)

涙がとまらない

私はこのビデオを見て今まで感じたことのない「ショック」を受けた。このビデオとは「中絶」のビデオだ。そこに写しだされ

る映像はあまりにも悲しく、痛々しいもので私は何度となく顔をそむけた。涙が止まらない。しかしそれと同時に、私はこのビデオから学んだことは計りられない。

(吉田三恵子)

自分のこととして考える

今回ビデオを見て、お母さんのお腹の中で、もう人間の形をしてジワジワと動き回っている赤ちゃんを砕き出している所をしっかりと見ることはできませんでした。それは、生まれきた赤ちゃんをばらばらにするのと違うな事だったからです。私は今まで中絶ということを知っていても具体

的にどうするのかという事までは知りませんでした。それを見ることが出来、今まで漠然としていたものが、自分の事として考えることができるようになり、とても良かったです。

(羽田礼子)

プロ・ライフ・

ムーブメント事務所

(中絶に反対する運動)

〒780

高知市新本町1-7-31

TEL(0888)73-3619

FAX(0888)73-2814

カウンセリング

センター時間

月～金 9時～17時

土のみ 9時～12時

御送金：(郵便振替)

徳島6-39607

プロ・ライフ・

ムーブメント

会員募集

1・通常会員(一年)

¥10,000

¥5,000

¥1,000 他

2・終身会員(毎月)

¥10,000

¥5,000

¥1,000

他

3・寄付

¥10,000

¥5,000

¥1,000

他

《事務所だより》

4月に東京で開かれた『生命尊重世界会議』にプロ・ライフからも参加しました。全世界からの参加者を迎え、有意義な三日間でした。世界に仲間入りをした、今後の日本の生命尊重運動にとっても大変意義深かったと思います。私たちプロ・ライフについても多くの反応があり、また各地の支援者の方々ともお会いでき大変励まされました。その支援者の中の一

人、樽田国臣さんがこの度、長野市にプロ・ライフの事務所を開くことになりました。

また、この大会を記念し

て『いのちを見つめて』という本が出版されました。7カ月で中絶されて生きて産まれてきた胎児。死を待つこの小さな生命を見過ごすことのできなかつた一人の若い見習い看護婦…。私たちが人間として生きるとはどういうことなのか、深く考えさせられます。多彩な執筆者によるすばらしい本です。是非一読下さい。

今年も半年が過ぎようとしています。プロ・ライフの活動も随分充実してきました。これは皆様方のご支援があつてこそです。本当にありがとうございます。どうぞ今後とも一層のご支援をよろしくお願ひいたします。

